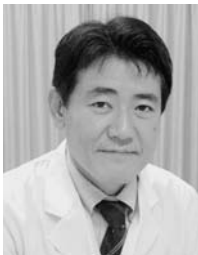


新任教員自己紹介

本年6月以降に着任された先生方をご紹介します。ただし投稿者だけです。

- ①授業科目
- ②研究分野
- ③趣味
- ④香川県・香川大学の印象
- ⑤学生へのメッセージ

医学部 教授 鈴木 康之 すずきやすゆき



- ①外科学総論、消化器外科学総論、基本的診療知識、基本的診療技能、膵疾患の外科治療、肝・胆道疾患の外科治療など
- ②消化器外科学
診療科としては食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆道など、主に腹腔内の臓器に発生する様々な疾患に苦しむ患者様に対してチームを組んで外科治療を行っています。疾患には“がん”などの腫瘍や、炎症、出血、時に外傷などが含まれます。その中で解決すべき多くの課題に臨床研究や基礎研究を通して取り組んでいます。研究成果は世界に向けて発信を続けています。もうひとつの大きな仕事が教育です。医学部学生には消化器外科学の広い範囲を少ない講義で効率的に教えられるように教室員とともに努力しています。実習ではベッドサイドで熱い教育を行っています。
- ③テニス、山歩きなど
- ④兵庫県出身ですが、香川県は近隣ですので特に違和感なくじんんでいます。
- ⑤医学部は郊外にあり、やや不便な面はありますが、勉学や研究に励むには良い環境で、大学らしい“自由な風”が吹いていると感じています。私たちの教室に興味のある学生さんはいつでも歓迎です。

教育学部 助教授 恵羅 修吉 えらしゅうきち



- ①障害児心理学、障害児心理検査法、障害児臨床指導演習など
- ②認知機能の発達と障害に関する神経心理学的、生理心理学的研究
- ③絵画鑑賞
- ④香川大学については、前任が単科の教育大学でしたから、総合大学としてのアドバンテージを期待しています。出身は山口県ですが、北海道・新潟県と雪国で20年以上生活してきました。本県では、雪のない冬を楽しみにしています（そして若干の寂しさも感じることでしょう）。
- ⑤研究・教育に関しては「学問の前での平等」をモットーにしています。学ぶことの楽しさを共有できればと思っています。

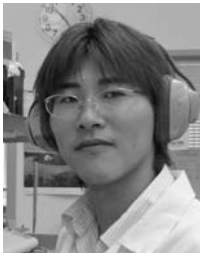
地域マネジメント研究科 助教授 木全 晃 きまたあきら



- ①ITマネジメント（大学院）マルチメディアの技術と動向（教養ゼミナール）
- ②経営組織、テレワーク、環境マネジメント
- ③フィールドワーク
- ④真摯であり、実直な諸先生方、学生諸氏が多いという印象を受けました。
香川といえば、やはり、うどんでしょうか。どの店も総じてレベルが高く、とても美味しいと思いました。
- ⑤大学は自ら学ぶ場であって、そのための材料の一部や方法論を教員は提供するにすぎないと考えています。幸い、ICTの進展でどのような場所においても情報が得られる環境が整いつつありますので、積極的に学問に臨まれることを期待しております。ただし、最後に信用できるのは、皆さんが自身の眼で直接、観察した現実であることをお忘れなきよう。

- ①授業科目
- ②研究分野
- ③趣味
- ④香川県・香川大学の印象
- ⑤学生へのメッセージ

医学部 助手 **山下 哲生** やましたてつお



- ①未定
- ②生理学
- ③球技一般
- ④自然が多くオープンな雰囲気
- ⑤よろしくお願いします。

医学部 助手 **白神千恵子** しらがみちえこ



- ①眼底疾患
- ②加齢黄斑変性などの黄斑疾患
- ③子供とウルトラマンを見ること
- ④香川大学の印象：
以前、関西医科大学、岡山大学附属病院や広島県の病院に勤務

していたが、香川大学は病院内で1日にすれかう人の数がとても少ない(医者も患者も)。活気が少ない印象がある。大学病院が交通の便利の悪い田舎にあることがおかしいので中心街に移転するべきである。

香川県の印象：

- うどんはとてもおいしいが、ラーメンやお好み焼きのレベルが低い。
- 子育て支援がしっかりしていて、子供を連れて遊びに行く場所や、託児所や病児保育や保育所が充実していることがありがたい。
- ⑤医学生は香川大に残ってほしい。マンパワーがなければ負のスパイラルに陥って、いい医療やいい研究ができず、大学全体のレベルがどんどん落ちてしまう。他の都道府県から来ている学生さんは、香川県は田舎だが住みやすい場所なので、ぜひ残ってもらってみんなで医療のレベルを上げるようがんばってほしい。

医学部附属病院 助手 **佐野 貴範** さのたかのり



- ①消化器外科・一般外科
- ②肝温虚血再灌流障害・生体肝移植・生体膵臓移植
- ③野球
- ④既に香川県にやってきて10年になります。食べ物もおいしいし、非常に暮らしやすいところだと思います。

- ⑤大学病院は人手が非常に少なく、臨床業務に追われる毎日です。皆さんが考えているほど香川大学病院は特殊なところではなく、経験できる症例の数もかなり多いので、きっと充実した臨床実習・臨床研修を積むことができますよ。また、もっと多くの学生が香川大学に残り、一緒に臨床・研究に参加してくれることを切に希望します。外科に興味のある方はいつでも尋ねてきてください。

医学部 助手 **大水 総一** おおみずそういち



- ①医学部の免疫学実習を担当する予定です。
- ②大学院生と博士研究員の時期に、免疫・内分泌・発生と様々な分野で研究を行ってきました。その間、一貫しては乳類の機能細胞間の相互作用、おもに液性因子

を介した作用について研究してきました。そして現在は、免疫系の細胞におけるガレクチン9の生理学的意義の解析を行っています。

- ③スポーツ観戦、特に野球。香川にやってきてからは、四国独立リーグに興味が出てきました。
- ④仕事するにはもったいないような天気の日が多く、いつも窓の外の誘惑と闘いながら研究しています。
- ⑤研究の戦略を組み立て、結果に胸をおどらせながら実験し、でてきた結果に一喜一憂する。最後にそれぞれの結果をつなぎ合わせて、今までなかったような物語をつくりだす。こんなおもしろさが研究にはあります。皆さん、一緒に楽しく研究しましょう。